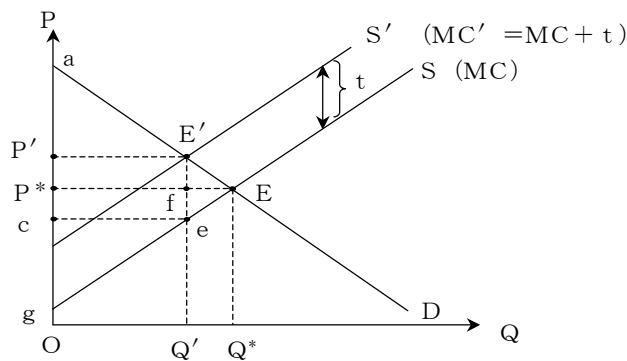


【問 題】

租税の転嫁と帰着について、図を用いて説明せよ。

【解答例】

租税の転嫁とは納税義務者が他者に税負担を移転させることを意味する。また、租税の帰着とは最終的に実際の税負担者に負担が帰属することであり、どの経済主体がどのような租税の負担割合になるかが確定することである。以下では、転嫁の代表例である前転に注目して従量税を題材に議論を進める。前転とは、納税者である生産者から卸売りに、卸売りから小売りに、小売りから消費者に税負担が移転することである。換言すると、売り手が租税負担額を価格に上乗せして買い手に販売することを通じて、売り手から買い手へと税負担が移転することである。



当初に市場均衡が点Eで成立しており、均衡価格が P^* 、均衡数量が Q^* であったとする。ここで、政府が財の生産量1単位につき t 円の従量税を課税したとする。このとき、納税義務者は生産者(企業)であるが、企業は税負担額の一部を価格に上乗せして消費者に前転するものとしよう。すると、各企業は1単位増産するときに余計にかかる生産費用、すなわち限界費用 MC が当初に比べて従量税額分だけ増加したと見なすから、供給曲線が当初の S から S' へ上方シフトすることになる。課税後の市場均衡は点 E' で達成され、均衡価格は P' に上昇し、均衡数量は Q' に減少する。このとき、財1単位に対する租税負担額 t 円をだれがどれだけ負担するかを考える。消費者の負担は、価格上昇分に等しく図中では区間 fE' で表される。生産者の負担は、 t 円から消費者負担分 fE' を差し引いた区間 eE' で表される。税負担総額 $\square P'E'ec$ は、消費者負担総額 $\square P*fE'P'$ と生産者負担総額 $\square ce f P^*$ に割り当てられ帰着する。このようにして、企業に対して従量税が課された場合には、その一部が消費者に前転される。従量税の場合の消費者と生産者の税負担割合は、需要と供給の価格弾力性の大きさによって異なる。例えば、贅沢品(奢侈品)のように需要の価格弾力性が大きい財ほど(需要曲線の傾きが小さい財ほど)消費者の税負担が減少する一方、必需品のように需要の価格弾力性が小さい財ほど(需要曲線の傾きが大きいほど)消費者の税負担が増加することになる。

以上